

JA自己改革ニュース

2023.2.9

自己改革
実践
サイクル編

No.8

全国のJAでは、「不断の自己改革」のPDCAサイクルとして、組合員との徹底した対話を通じた自己改革実践サイクルに取り組んでいます。PDCAとは、Plan(計画)→Do(実行)→Check(確認)→Act(改善)の頭文字をとったもので、この一連の流れを繰り返して業務を継続的に改善する取り組みです。各地で進む自己改革実践サイクルの取り組みをご紹介します。



神奈川県 JAさがみ

より出向き より対話 より実践

P

JAさがみは組合員とのつながりを重視した運営に力を入れており、組合員との対話を原点として「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする不断の自己改革に取り組んでいます。22年度からは第6次都市農業振興戦略「みどりの仲間プラン」のもと、量販店での売り場確保や直売所の地域交流拠点化、協同活動(つながり活動)をはじめ、「さがみ農業」の販売チャネル拡大や都市農業の特徴を活かした販売戦略の展開、地域活性化などを掲げています。

D

22年度上半期は、新たに量販店5店舗と値決めによる販売を実現しました。また、コロナウィルス感染拡大や天候の影響など厳しい環境でしたが、直売所出荷者意見交換会などを通じ、直売所の運営改善、生産者・JAによる店舗づくりを着実に進めています。銘柄集約肥料一括仕入れによるコスト削減の取り組みでは、年間取扱目標14,000袋に対し22年11月末時点で10,000袋を超え、目標達成に向けて取り組んでいます。

C



JAさがみの役職員らが行った管内の担い手農家への訪問・対話活動

自己改革の着実な実践に向けては、JAの役職員が「より出向き より対話 より実践」の自己改革実践スローガンの下、計画の進捗状況と成果を確認し、組合員との対話を実施しています。

毎年度、正組合員全戸訪問(支店長、渉外・窓口担当者による正組合員個人への訪問)と、常勤役員1名と地区役員1名、支店長1名、営農経済センター長1名の4名による認定農業者を中心とした担い手や部会長への訪問を実施しています。

JAは正組合員・准組合員とのつながりを重視し、自己改革の実績や取り組み状況を丁寧に説明し、意見や評価、提案を頂いてい

ます。直売所関係では来客数の増減状況や旬の農産物フェアといった集客イベントの開催などの報告に対し、「わいわい市(直売所)の集客拡大に向けて、魅力のある、人が集まる直売所にしてほしい。人が集まれば売り上げが伸び、農家所得の増加につながる」という励ましや期待の意見、要望を頂きました。また、販路拡大に関しては「販路拡大の情報や肥料の取りまとめなど、経済・組織関係の情報を知らせてもらえると助かる」「市場を通さず、地元の野菜などを地元で使ってくれる販路をJAで作り、ニーズのマッチングをしてほしい」などの意見を頂いており、農業者の所得増大に向けた取り組みに反映していきます。

A

自己改革の取り組みと成果について、引き続き組合員等に丁寧に説明し、評価と意向を事業計画に反映することで、PDCAサイクルを回し、不断の自己改革を着実に実践します。

正組合員全戸訪問件数

22年度上期
(3月~8月)

5,693件

22年度
目標

8,100件

担い手等戸別訪問件数

22年度
第3四半期まで
(3月~11月)

287件

22年度
目標

400件

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行/ JA全中 (一般社団法人 全国農業協同組合中央会)



JAグループ

耕そう、大地と地域のみらい。